

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループは、第1四半期連結会計期間から事業の種類別セグメント名称を変更しており、以下は変更後のセグメント名称により記載しております。変更の内容につきましては、「5. 四半期連結財務諸表 (5)セグメント情報」に記載のとおりであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、世界的な景気後退の影響を受け、企業収益や個人消費が低迷し、失業率が過去最高水準となるなど、依然として厳しい状況が継続しました。一方で、当社を取り巻くインターネット及びブロードバンド関連の環境につきましては、平成21年9月末時点でブロードバンド契約数が3,100万を超えるなど、若干鈍化傾向にあるものの継続的な拡大基調にあります。

このような状況の下、当社は、①投資先の米国Twitter社の運営するミニブログ・サービス「Twitter」の日本国内での普及拡大と「Twitter」の事業化を進めること、②資本業務提携を行っているカルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)をはじめとした事業パートナーとの連携、③「ハイブリッド・ソリューション」(企画提案からシステム開発/プロモーション/決済までを顧客にシームレスに提供)を事業基盤として定着させることを主要経営テーマに事業運営してまいりました。

これらの結果、決済・物流ソリューションを提供するイーコンテクトカンパニーにおける決済件数及び連結子会社(株)DGモバイルにおける携帯コンテンツ提供が堅調に推移した一方で、前第2四半期連結累計期間において連結子会社でありました(株)カカコム及び(株)DGコミュニケーションズが連結除外となったため、当社グループの連結売上高は3,854百万円(対前年同期比14,196百万円減、同78.6%減)、営業損失は443百万円(前年同期は営業利益691百万円)となりました。また、上記の(株)カカコムについては第1四半期連結会計期間より持分法適用関連会社となっているため、持分法による投資利益の計上により、経常損失は261百万円(前年同期は経常利益563百万円)となりました。一方、前年同期において計上しました投資有価証券評価損等の特別損失490百万円が、当第2四半期連結累計期間では1百万円であったこと、及び上記(株)カカコムの連結除外等により少数株主利益の負担が少なくなったことなどから、四半期純損失は247百万円(前年同期は四半期純損失1,255百万円)と改善致しました。

事業の種類別セグメントの業績は、以下のとおりです。

[ハイブリッド・ソリューション事業]

ハイブリッド・ソリューション事業におきましては、クロスメディアでのプロモーションを展開するディージー・アンド・アイベックスカンパニーにおいては、企業収益の悪化を背景とした企業の広告費支出の削減等により、厳しい外部環境が続きました。一方で、決済・物流ソリューションを提供するイーコンテクトカンパニーにおきましては、他社との価格競争が厳しさを増す環境の下、新たにゲーム事業大手の(株)スクウェア・エニックスの新システム「スクウェア・エニックス Crysta」へ決済システムの提供を行うなど、決済件数は堅調に推移し、さらに世界で最も利用されているオンライン決済サービスのひとつであるPayPalでの決済サービスを日本で初めて導入するに至りました。なお、従来連結子会社でありました(株)DGコミュニケーションズは第1四半期連結会計期間より連結除外となっております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は3,503百万円(対前年同期比9,949百万円減、同74.0%減)、営業利益は84百万円(前年同期は営業損失33百万円)となりました。

[メディア・インキュベーション事業]

メディア・インキュベーション事業におきましては、連結子会社(株)DGモバイルによる第三世代(3G)携帯電話に向けたコンテンツ提供が堅調に推移するとともに、「Twitter」への動画・画像による投稿を可能にした動画・静止画共有サービス「twitvideo」を公開しました。また、同(株)CGMマーケティングにおきましては、一般のTwitterユーザー向け総合ナビゲーションサイト「twinavi」やテレビを見ながら「Twitter」を使うウェブサイト「ツイテレ」を公開し、企業向けTwitterアカウント運用支援ツール「Tweetmanager」の提供開始や、「Twitter」内の情報をバナー広告やウェブサイトに配信できる「Tweetbanner」の開発を行うなど、「Twitter」を活用した広告販売や企業での有用活用のためのコンサルティングを進めてまいりました。さらに、Twitterサービスの更なる

事業化を加速し、中核事業へと拡大させるため、当社内に新たに「Twitterカンパニー」を設置致しました。なお、従来連結子会社でありました(株)カクコムは第1四半期連結会計期間より連結除外し、持分法適用関連会社となっております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は343百万円（対前年同期比4,124百万円減、同92.3%減）、営業損失は74百万円（前年同期は営業利益1,447百万円）となりました。

[ベンチャー・インキュベーション事業]

ベンチャー・インキュベーション事業におきましては、世界の新規株式公開市場は回復傾向をみせておりますが、実体経済は厳しい状況が続きました。一方で投資先である米国Twitter社の運営するミニブログ・サービス「Twitter」の日本での普及や日本国内専用携帯サイトの開発・普及を支援し、また、会員制ブランドセールサイトを運営する(株)ブランディシモの設立に参加する国内投資を行うなど、将来の収益源泉の確保に努めました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は7百万円（対前年同期比121百万円減、同94.4%減）、営業損失は54百万円（前年同期は営業損失183百万円）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は前連結会計年度末に比べて8,805百万円減少し、15,195百万円となりました。この主な要因は、前連結会計年度に係る法人税等の支払、配当金の支払並びに借入金の返済等により現金及び預金が7,079百万円、売上債権の回収等により受取手形及び売掛金が745百万円、子会社株式の売却に係る未収入金の回収等により未収入金が1,828百万円減少したことによるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は前連結会計年度末に比べて1,256百万円増加し、7,531百万円となりました。この主な要因は、本社及び各事業所の移転等に伴い有形固定資産が395百万円、投資有価証券が取得等により677百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は前連結会計年度末に比べて6,207百万円減少し、11,153百万円となりました。この主な要因は、法人税の支払等により未払法人税等が3,768百万円、資金の返済等により短期借入金が1,940百万円、決済事業等に係る預り金が541百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は前連結会計年度末に比べて170百万円減少し、754百万円となりました。この主な要因は、長期借入金が返済等により229百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は前連結会計年度末に比べて1,170百万円減少し、10,818百万円となりました。この主な要因は、剰余金の配当及び四半期純損失の計上等により利益剰余金が1,179百万円減少したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、8,978百万円と前連結会計年度末と比べ6,121百万円（40.5%）の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は4,303百万円（前年同期は734百万円の獲得）となりました。収入の主な内訳は、売上債権の減少額741百万円等であり、支出の主な内訳は、イーコンテクトカンパニーの決済業務における一時的な先行支出等による未収入金の増加額362百万円、同じく預り金の減少額541百万円、並びに法人税等の支払額3,731百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は1,292百万円(前年同期は468百万円の使用)となりました。収入の主な内訳は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入2,090百万円、貸付金の回収による収入(純額)193百万円等であり、支出の主な内訳は、投資有価証券の取得による支出649百万円、当社グループの本社移転に伴う敷金及び保証金の差入による支出299百万円、有形固定資産の取得による支出103百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は3,111百万円(前年同期は178百万円の使用)となりました。支出の主な内訳は、短期借入金の返済による支出(純額)1,940百万円、長期借入金の返済による支出229百万円、配当金の支払額917百万円等であります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年6月期の通期の連結業績予想につきましては、平成21年8月13日に発表致しました連結業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 簡便な会計処理

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用しております。

2. 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 工事契約に関する会計基準の適用

受注制作のソフトウェアに係る収益の計上基準については、従来、検収基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手したソフトウェア開発契約から、当第2四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の契約については検収基準を適用しております。

なお、これによる損益に与える影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,053,944	13,133,095
金銭の信託	3,010,411	2,048,488
受取手形及び売掛金	2,104,683	2,850,681
営業投資有価証券	95,963	89,601
仕掛品	101,608	83,992
原材料及び貯蔵品	1,076	1,275
未収入金	3,620,544	5,449,164
その他	210,538	346,855
貸倒引当金	△3,580	△2,331
流動資産合計	15,195,190	24,000,824
固定資産		
有形固定資産	451,460	56,175
無形固定資産		
ソフトウェア	270,319	293,368
のれん	3,495,259	3,590,203
その他	18,773	15,489
無形固定資産合計	3,784,352	3,899,061
投資その他の資産		
投資有価証券	2,758,977	2,081,976
長期貸付金	725,218	752,245
その他	565,986	250,784
貸倒引当金	△754,789	△765,693
投資その他の資産合計	3,295,393	2,319,312
固定資産合計	7,531,206	6,274,550
資産合計	22,726,397	30,275,374

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,265,188	1,237,925
短期借入金	2,492,000	4,432,000
1年内返済予定の長期借入金	515,360	515,360
1年内償還予定の社債	20,000	40,000
未払法人税等	6,758	3,775,552
賞与引当金	15,513	21,002
その他の引当金	72,766	108,993
預り金	6,149,287	6,691,237
その他	616,655	538,878
流動負債合計	11,153,529	17,360,950
固定負債		
長期借入金	615,840	845,740
繰延税金負債	20,640	41,139
退職給付引当金	42,561	38,015
その他	75,410	398
固定負債合計	754,453	925,294
負債合計	11,907,982	18,286,244
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,835,604	1,835,604
資本剰余金	5,521,655	5,521,655
利益剰余金	3,457,841	4,637,565
自己株式	△69,840	△69,840
株主資本合計	10,745,261	11,924,984
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	18,735	64,145
評価・換算差額等合計	18,735	64,145
少数株主持分	54,417	—
純資産合計	10,818,414	11,989,130
負債純資産合計	22,726,397	30,275,374

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
売上高	18,051,589	3,854,657
売上原価	11,785,926	2,923,506
売上総利益	6,265,663	931,150
販売費及び一般管理費	5,574,451	1,374,722
営業利益又は営業損失(△)	691,211	△443,571
営業外収益		
受取利息	35,168	13,965
受取配当金	4,336	4
持分法による投資利益	—	219,631
その他	20,849	28,219
営業外収益合計	60,354	261,821
営業外費用		
支払利息	119,220	55,137
投資事業組合運用損	—	19,242
その他	68,743	5,361
営業外費用合計	187,963	79,741
経常利益又は経常損失(△)	563,602	△261,492
特別利益		
持分変動利益	74,316	15,635
関係会社株式売却益	—	15,240
その他	150	—
特別利益合計	74,466	30,875
特別損失		
固定資産除却損	19,872	1,550
投資有価証券評価損	389,385	54
持分変動損失	11,528	—
その他	69,569	—
特別損失合計	490,356	1,604
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	147,712	△232,220
法人税、住民税及び事業税	763,773	1,895
過年度法人税等	—	16,957
法人税等調整額	75,496	—
法人税等合計	839,270	18,853
少数株主利益又は少数株主損失(△)	564,336	△3,472
四半期純損失(△)	△1,255,894	△247,601

